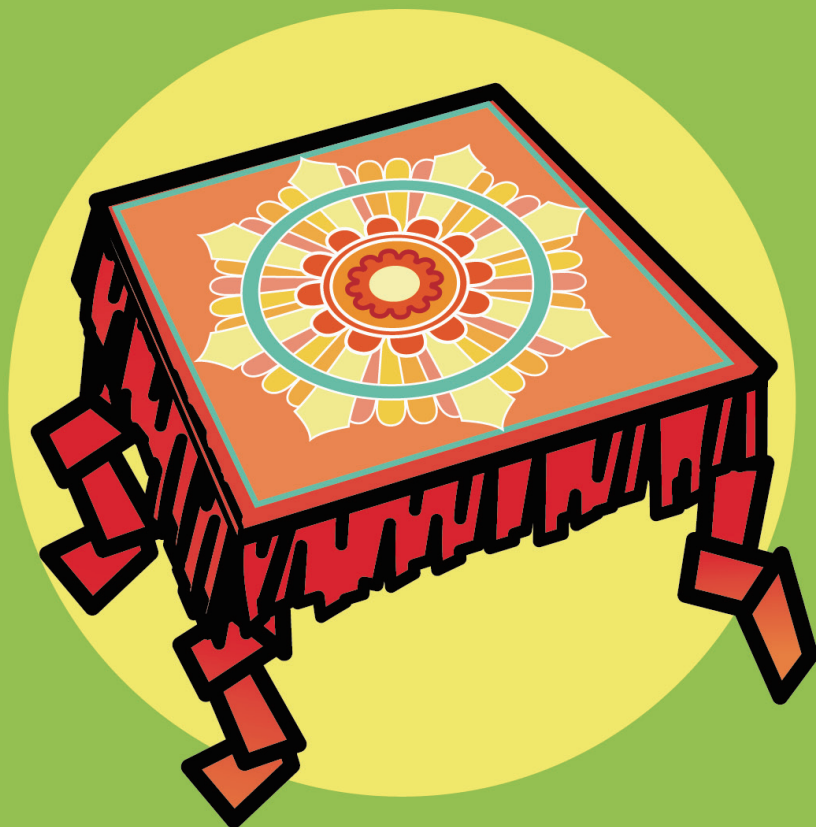
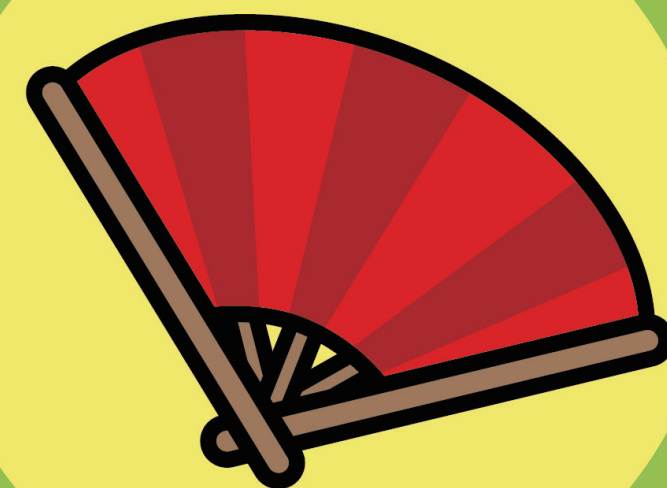




ワタちゃんと

すてきな

おまつのまつり





1

ある日、オキタンポポのワタちゃんがふわりふわりと空を散歩している、友達と一緒に踊っていました。

「ワタ」
「ミサゴさんこんにちは！なんだか楽しそうね！しゃもじを持って何をしているの？」

「ミサゴ」
「こんにちはワタちゃん！ようこそござりました！（隠岐の方言で「ようこそ！」の意）今日は中ノ島のキンヤモニヤまつりだから、踊りを練習しているの。」

ミサゴさんはしゃもじをカチカチならしながら楽しそうに踊っています。

「ワタ」
「キンヤモニヤまつり？私もいつてみたいな！」
それを聞いたミサゴさんは

「ミサゴ」
「ぜひ私と一緒にいきましょう！」
と言って、ワタちゃんを背中に乗せて、パタパタ飛びながらおまつりへ向かうことにしました。

【オキタンポポワタちゃん】

ジオ紙芝居全三部の主人公。隠岐固有のタンポポがモチーフ。オキタンポポは日本に昔からある和タンポポの一種で、セイヨウタンポポと異なり、春（4月～5月）にだけ咲く。

【ミサゴ】

紙芝居「ワタちゃんとふしぎないわ」より登場。海辺に生息し、主に魚を食べるタカの仲間。





中ノ島^{なかのしま}につくとたくさんの人^{ひと}がしやもじを持^もって列^{れつ}になり踊^{おど}つています。

〈踊り手〉
「キヨが機織^{はたお}りやキンニヤモニヤ♪」(歌う)

〈ワタ〉
「わあ! すごくにぎやかね!」

たくさんの人^{ひと}たちがいつせいにしやもじを『カチカチ』とならす音^{おと}がひびいて、とっても楽し^{たの}そう。

〈ミサゴ〉
「キンニヤモニヤまつりは隠岐^{おき}の中ノ島^{なかのしま}でつくられた踊^{おど}りなんだよ。
ワタちゃんも一緒^{いっしょ}にやってみようよ!」

〈ワタ〉
「うん!」①

〈ワタ〉
「すごく楽し^{たの}いね!」

ワタちゃんはみんなとキンニヤモニヤまつりを思い切り楽し^{たの}みました。

演出ノート

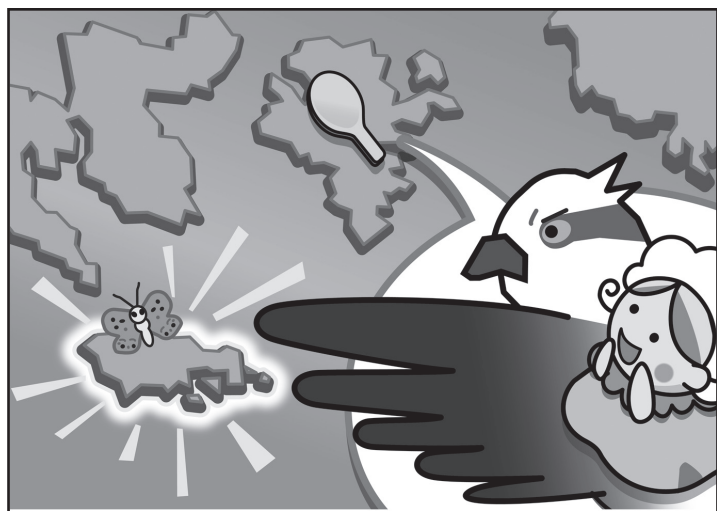
①子どもに「キンニヤモニヤ♪」のところを歌ってみようと誘い、読み手が「せーの、キヨが機織りやキンニヤモニヤ♪」と歌うように促す。子どもは「キンニヤモニヤ」だけを歌う。

【キンニヤモニヤ祭】

中ノ島(海士町)の代表的な民謡である「キンニヤモニヤ節」に合わせて、約1000人が総踊りする祭り。2つのしやもじを軽快に打ち鳴らしながら踊るのが特徴。キンニヤモニヤ節の由来は中ノ島生まれの杉浦松太郎氏が西南戦争(1877年)に従軍し、九州より帰郷したとき、熊本の民謡「キンニヨモニヨ節」を口ずさんだのが、民謡となったとされる(諸説あり)。開催日:毎年8月第4土曜日







3

するとミサゴさんが思い出したように言いました。

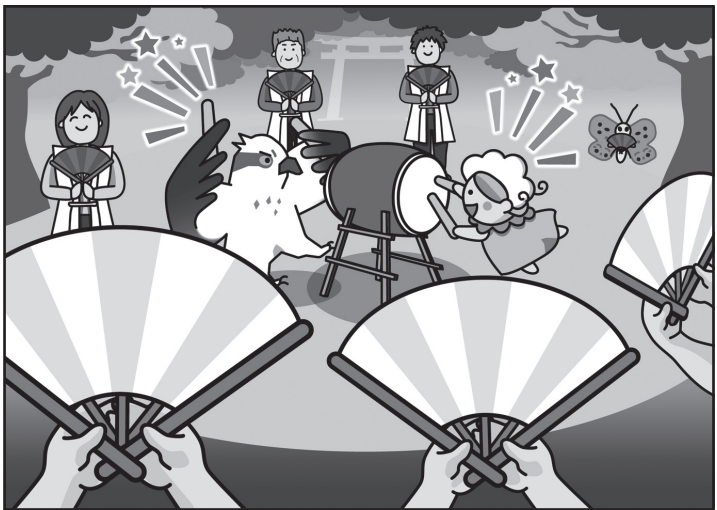
「ワタちゃん、隣となりの知夫里島ちぶりじまを知しってる？ そのおまつりもなんだかおもしろいみたいなんだ！」

〈ミサゴ〉
〈ワタ〉

「そうなの？ どんなおまつりなのかしら？」一緒にいっしょに行いってみようよ！」

二人は蝶々ふたり ちょうちょのクロシジミさんがいる知夫里島ちぶりじまへ行いってみることにしました。





知夫里島^{ちぶりじま}にやつてくると…

『トン・トト・トン』どこからか太鼓^{たいこ}の音が聞こえてきます。

「こんにちは。ワタちゃん、ミサゴさん！まめしちよる？（隠岐^{おき}の方言^{ほうげん}で「げんき？」の意^い）」

「こんにちはークロシジミさん。ここでおもしろいおまつりがあると聞いて来てみたの！今の踊り^{おど}はなに？」

「これは皆二踊り^{みないちおど}といって、太鼓^{たいこ}のリズムに合わせてこの扇子^{せんす}で舞^まうのよ。ワタちゃん、ミサゴさん、太鼓^{たいこ}をたたいてみない？」

ワタちゃんとミサゴさんはやつてみることにしました。②
クロシジミさんは太鼓^{たいこ}に合わせて扇子^{せんす}で舞い、みんなで皆二踊り^{みないちおど}を楽し^{たの}しました。

「そうだ、ワタちゃん。隣の西ノ島^{となりにしのみま}にはまた違^{ちが}ったおまつりがあるみたいなの。いつてみない？」

「うん、いつてみたい！」

ミサゴさんはワタちゃんを背中^{せなか}に乗^のせてクロシジミさんも一緒^{いっしょ}にバタバタ飛^とびながら隣の西ノ島^{となりにしのみま}へ向かうことにしました。

【皆二踊り】

知夫里島（知夫村）の神社（一宮神社）で行われる村指定無形文化財の郷土芸能。太鼓を中心に、扇子を一本もった人々が輪になり、リズムに合わせて歌いながら緩やかに踊る。島の豊作祈願として奉納されるが、風祈願や雨乞いの際にも、歌詞を変えて奉納される。明治中頃まで知夫里島の各地で行われていたが、現在は仁夫地区だけが残っている。開催日：毎年8月15日

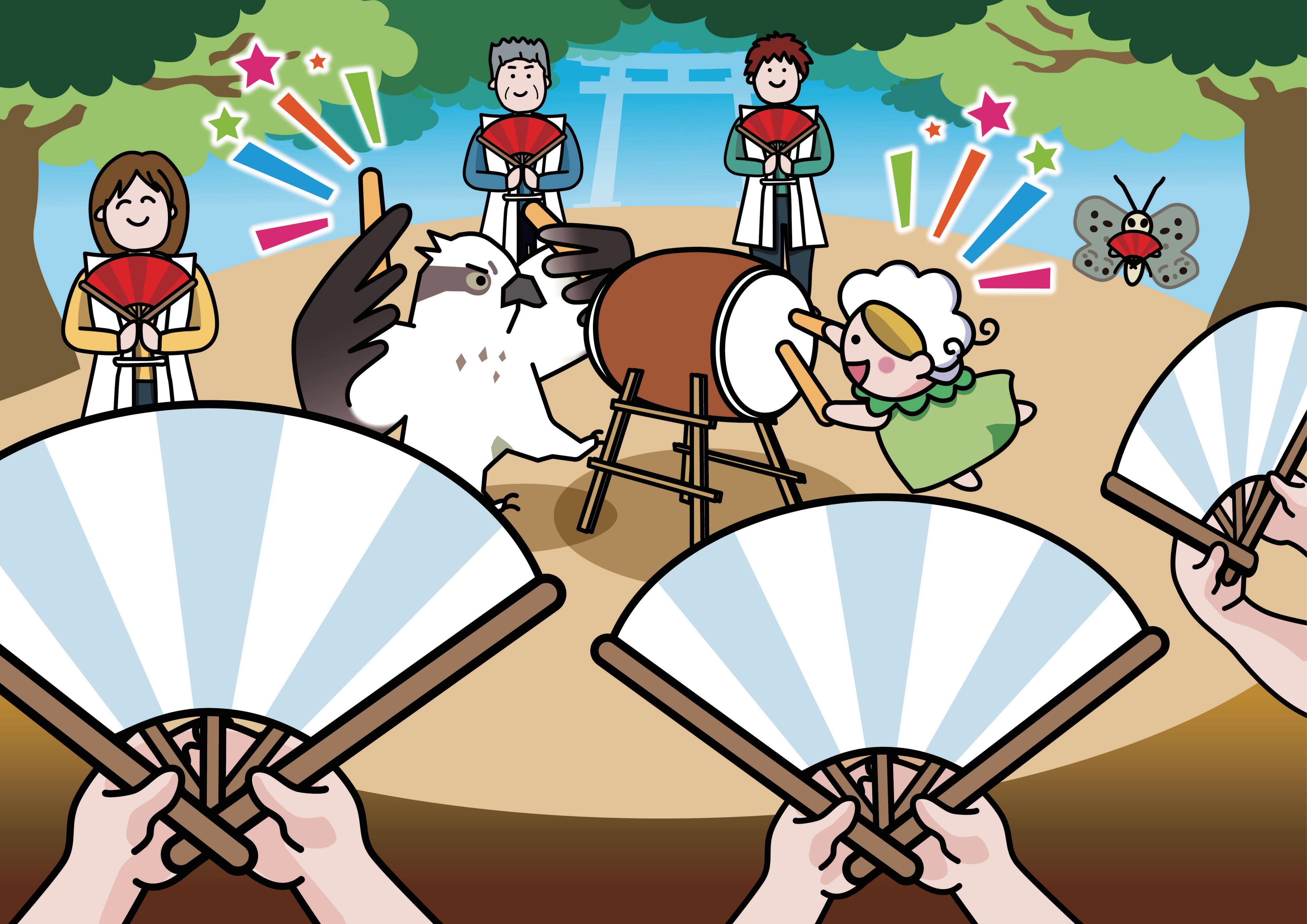
【クロシジミ】

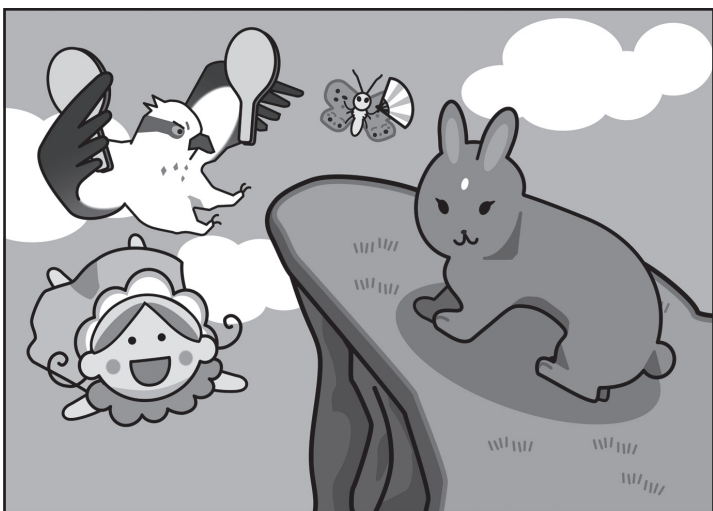
紙芝居「ワタちゃんとふしぎないわ」より登場。全国的に最も絶滅が危惧されている蝶の一種環境省：絶滅危惧ⅠB類（EN）。



演出ノート

②子どもに床を太鼓にして『トン・トト・トン』のリズムを一緒にやってみようと誘う。





西^{にし}ノ島^{しま}につきました。

〈ワタ〉

「あつ、ここはたしか、オキノウサギさんがいる島^{しま}だったよね？」

ワタちゃんは、前^{まえ}に來^きたことを思^{おも}い出^だしました。すると、

〈オキノウサギ〉

「おい、ワタちゃーん！」

とオキノウサギさんがワタちゃんをみつけてぴよんぴよんはねながらやつてきました。

〈オキノウサギ〉

「やあ、ワタちゃん。今日はどげした？（隠岐^{おき}の方言^{ほうげん}で「どうしたの？」の意^い）」

〈ワタ〉

「今^{いま}、みんなで隠岐^{おき}のいろいろなおまつりをみているところなのよ。」

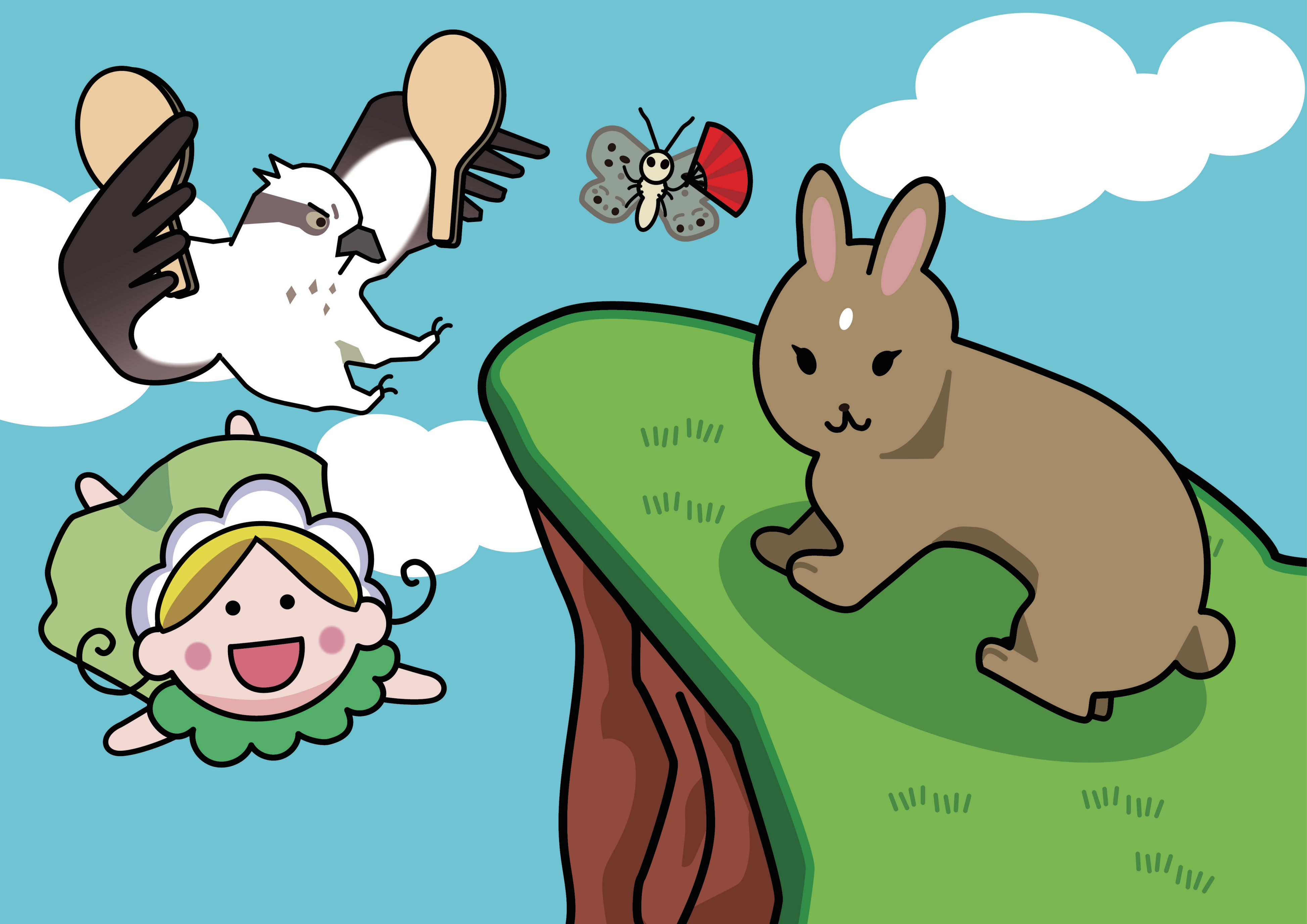
〈オキノウサギ〉

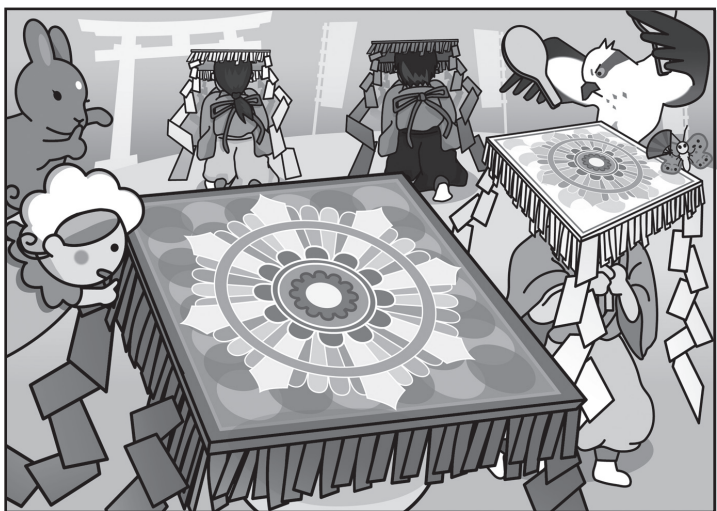
「そうなんだね！それならちようどぼくも美田八幡宮^{みたはちまんぐう}の十方^{じゅうほう}拝^{はい}礼^{らい}という踊^{おど}りを見^みにいくんだ！一緒^{いっしょ}に行^いこう！」

さつそく、みんなで美田八幡宮^{みたはちまんぐう}へ行^いくことにしました。

【オキノウサギ】

紙芝居「オキタンポポワタちゃんのぼうけん」より登場。島後と西ノ島に生息する隠岐固有のウサギ。





神社につくと色とりどりの服を着た人たちがゆつくりした音楽を奏でながら踊っています。

〈ワタ〉
「すてきなかぶりものね！」

とワタちゃんは服やかぶりものの笠に興味津々です。

ミサゴさんが持っていたしゃもじをカチカチならして一緒に踊ろうとすると、オキノウサギさんがあわてた様子で

〈オキノウサギ〉
「しー！しずかに！」

と止めました。

「西ノ島の十方拝礼は神様にお米や麦などの食べ物がたくさん獲れるようにお願いするおまつりだから、静かに祈りするんだよー！」

〈ミサゴ〉
「そ、そうだったのね…ごめんなさい。」

ミサゴさんはみんなと一緒に心をこめて手を合わせました。

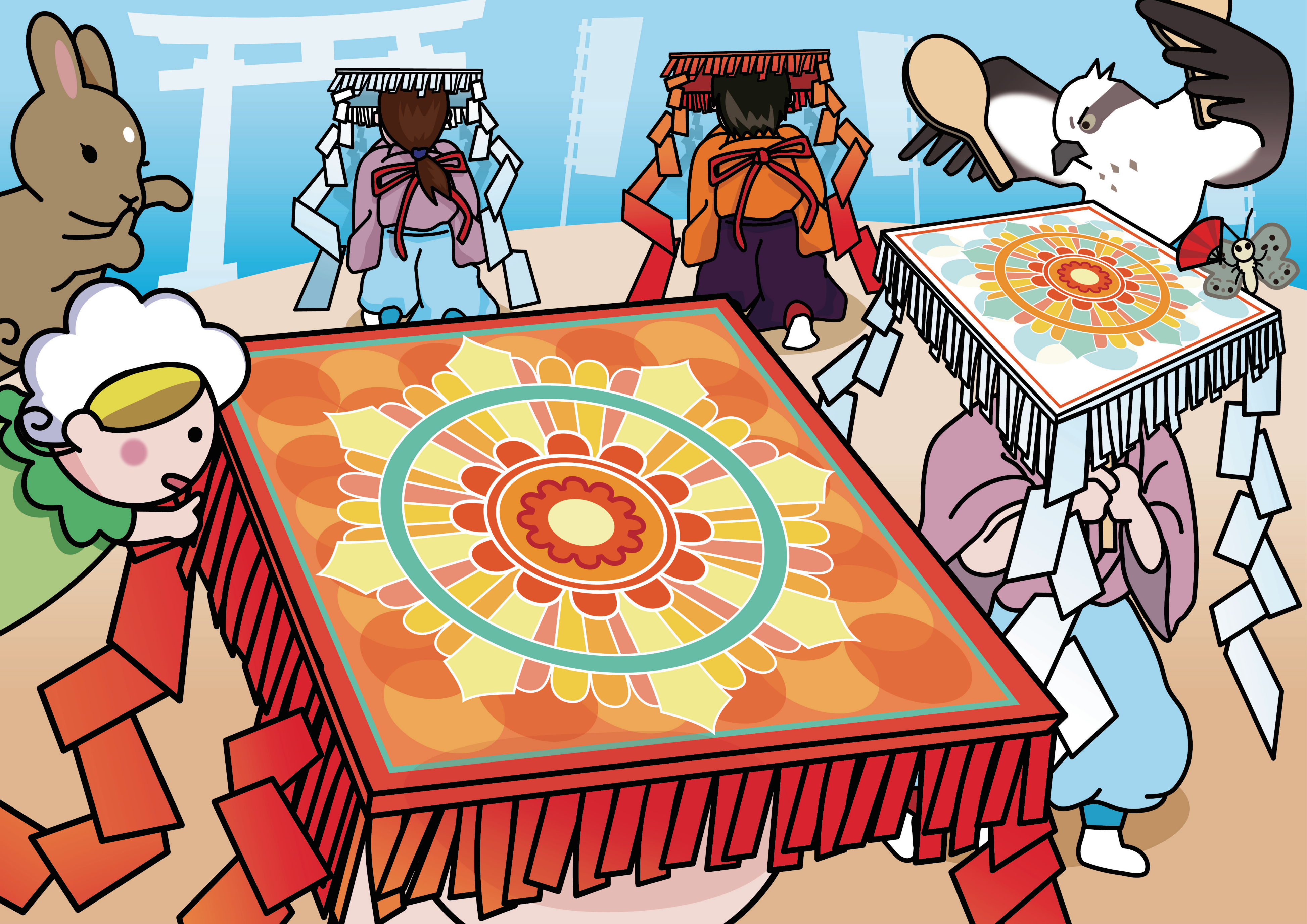
〈ワタ〉
「キンニャモニャまつりは賑やかだったけど、十方拝礼のように静かなおまつりもあるのね。」

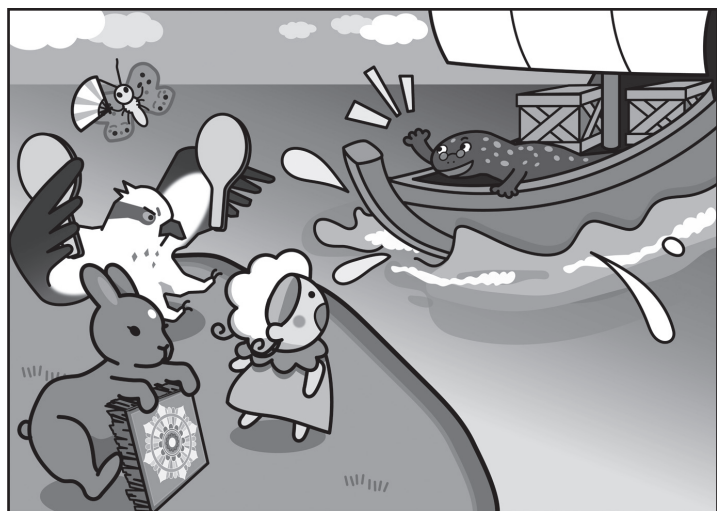
ワタちゃんは色々なおまつりがあることを知りました。

【美田八幡宮の十方拝礼】

西ノ島(西ノ島町)の美田八幡宮の祭礼で奉納される田楽は「十方拝礼」と呼ばれ、1992年に国の重要無形民俗文化財(美田八幡宮田楽)に指定された。いつ頃から行われていたかについては定かではないが、美田八幡宮に残る「八幡宮祭礼式書」によると室町時代(1338〜1573年)末期にはすでに行われていたとされる。祭礼は「十方拝礼」以外に「神の相撲」と「獅子舞」がある。開催日:隔年(奇数年)9月15日







するとその時、突然びゅーっと強い風が吹き、海から船がやって
きました。

近づいてきた船から、のそのそとオキサンショウウオさんが顔を
出しました。

「おお、みんな元気じゃったか？急に強い風が吹いてきてのう。少
しこの島で待たせてもらうよ。」

「あつ、オキサンショウウオさん！」

みんなは友達が乗っていたのでびっくり。

「大変でしたね。それにしてもたくさん荷物を積んでいる
の？」

「この箱の中には日本のいろいろなところから買ってきたものが
積んであるんじゃないよ。よかつたら船の中をみていくかい？」

「ぜひみてみたいわ！」

みんなは「何が入っているんだろうねー！」とワクワクしながら
船に乗り込みました。

〈オキサンショウウオ〉

〈ワタと仲間たち〉

〈ワタ〉

〈オキサンショウウオ〉

〈ワタ〉

【オキサンショウウオ】

紙芝居「オキタンポポワタちゃんのぼうけん」より登場。島後でのみ生息が確認されている隠岐固有のサ
ンショウウオ。





〈オキサンショウウオ〉

〈ワタと仲間たち〉

〈オキサンショウウオ〉

〈ワタ〉

「これが昆布、こつちは着物をつくるための布。それからこんな大きな岩もあるんじや。積んである荷物はいろいろなところから運んできたんじやよ。それでな、ここの島の島からは隠岐名物のアワビやナマコを積んで他のところに運んでいくんじや。これが大人気のう、よく売れるんじやよ。」

「へー！すごい！隠岐にはいろんなものがあるんだね！」

「ところでみんなはおまつりに行つてたのかい？」

「そうなんです。私たち隠岐のいろいろなおまつりを楽しんでいたんですよ。」





〈オキサンショウウオ〉

「わしが住^すんでいる島後^{とうご}にもしげさ節^{ぶし}という歌^{うた}があるんじやが、それも船^{ふね}で他^{ほか}のところから伝^{つた}わつてきたんじやよ。」

オキサンショウウオさんは、のそのそと小皿^{こざら}をみんなに渡^{わた}し、2枚^{まい}重ねてカチカチならしながら歌^{うた}い出^だしました。

〈オキサンショウウオ〉

「しげさしげさと声^{こえ}がする〜♪(歌^{うた}う)お皿^{さら}を2枚^{まい}重ねてカチカチとさせるんじや。『カチ・カチ・カチカチカチ』、さあ、一^{いっ}緒^{しょ}にやってみよう。」③

みんなも小皿^{こざら}を『カチ・カチ・カチカチカチ』とならしてみました。

だんだん上^う手^てにな^なつてきて、とても嬉^{うれ}しそうです。

演出ノート

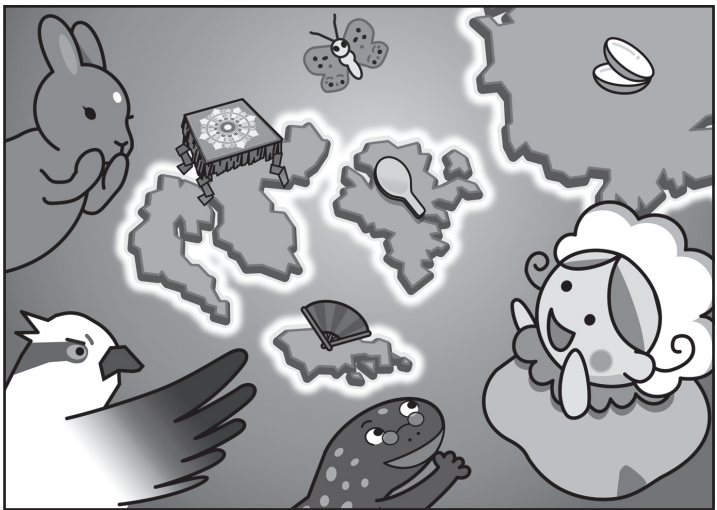
③子どもにお皿の鳴るリズムの『カチ・カチ・カチカチカチ』を一緒にやってみようと誘い、「せーの『カチ・カチ・カチカチカチ』」と言いながら手をたたく動作をするように促す。

【隠岐しげさ節】

島後(隠岐の島町)の代表的な民謡の一つ。「隠岐しげさ節」は新潟県柏崎で伝承されている「しゅげさ」が元歌と言われ、江戸時代中頃から明治三十年(1897年)頃まで瀬戸内海から日本海を行き来していた北前船によって伝わったとされている。島後では「隠岐しげさ節」に合わせて踊る「しげさ踊りパレード」が行われる。踊りは2枚の皿を鳴らしながら踊る皿踊りがある。しげさ踊りパレード開催日:毎年5月第2土曜日







その夜は、みんなでわいわい隠岐のおまつりを歌って踊って大盛り上がりでした。

「隠岐の四つの島にはそれぞれいろいろなおまつりがあって、おもしろいな。今度、友だちにも教えてあげたいわ。」

「僕も！」

「私も！」

（間をあけて）

ワタちゃんの楽しい空の散歩は、これでおーしーまい。

（おしまい）

【発展】

最後に読み手が子どもたちに、参加したことや聞いたことがある隠岐のおまつりについて問いかけてみるのもよいでしょう。

また、学習として利用する際は、発展的に「隠岐のまつりを通して隠岐の様々な文化（言葉・風習・行事など）を学ぶきっかけとしたり、文化を次世代につなげていくにはどうしたらよいかを問いかけ、考えたりするのもよいでしょう。



ワタちゃんとすてきなおきのおまつり
2022 年 3 月 発行

監修 隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会
制作 NPO法人 隠岐しぜんむら
発行 隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会
島根県隠岐郡隠岐の島町中町目貫の四61番地
TEL 08512-3-1321



ワタちゃんと
すてきなおきのおまつり

ワタちゃんとすてきなおきのおまつり

— ぬく —